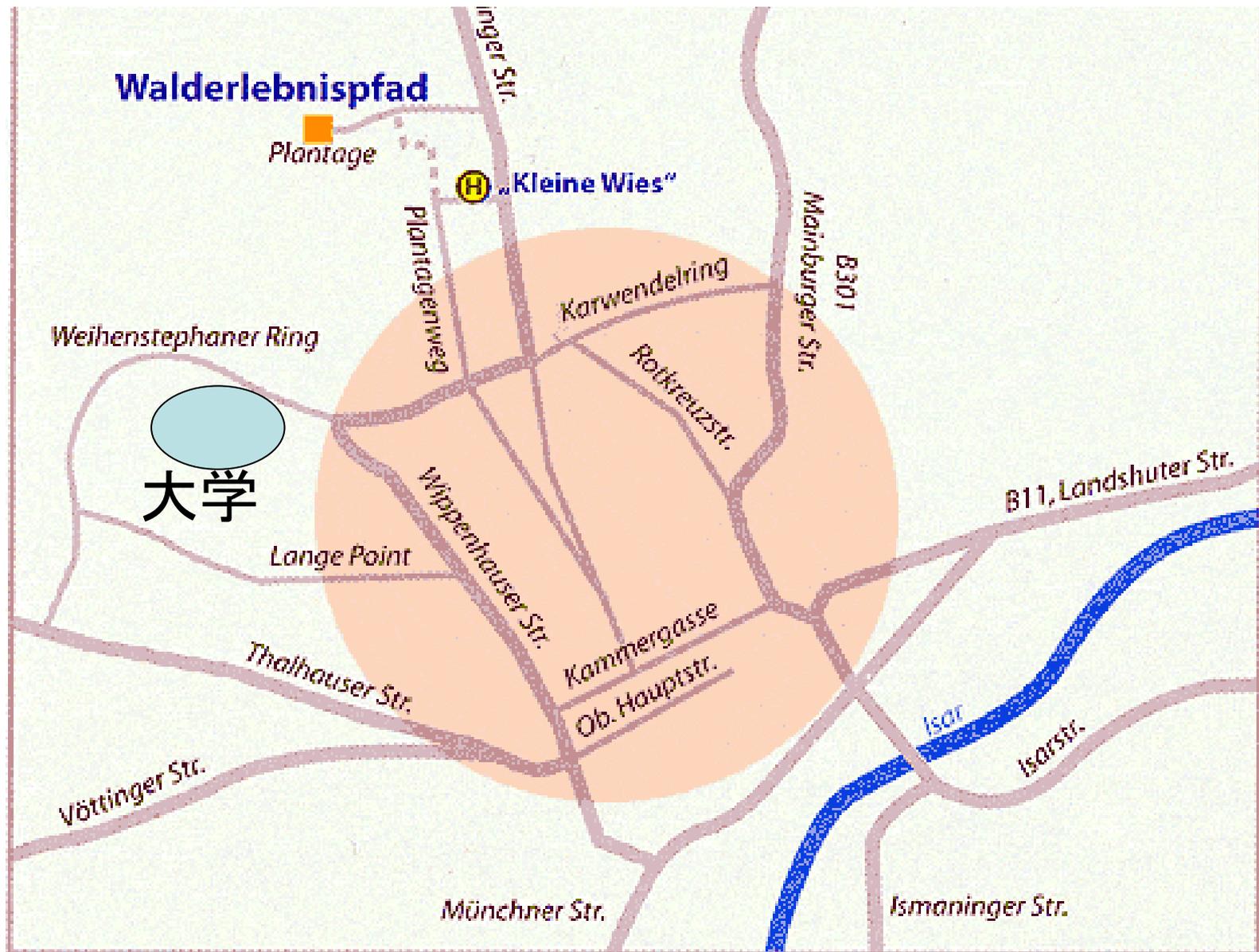


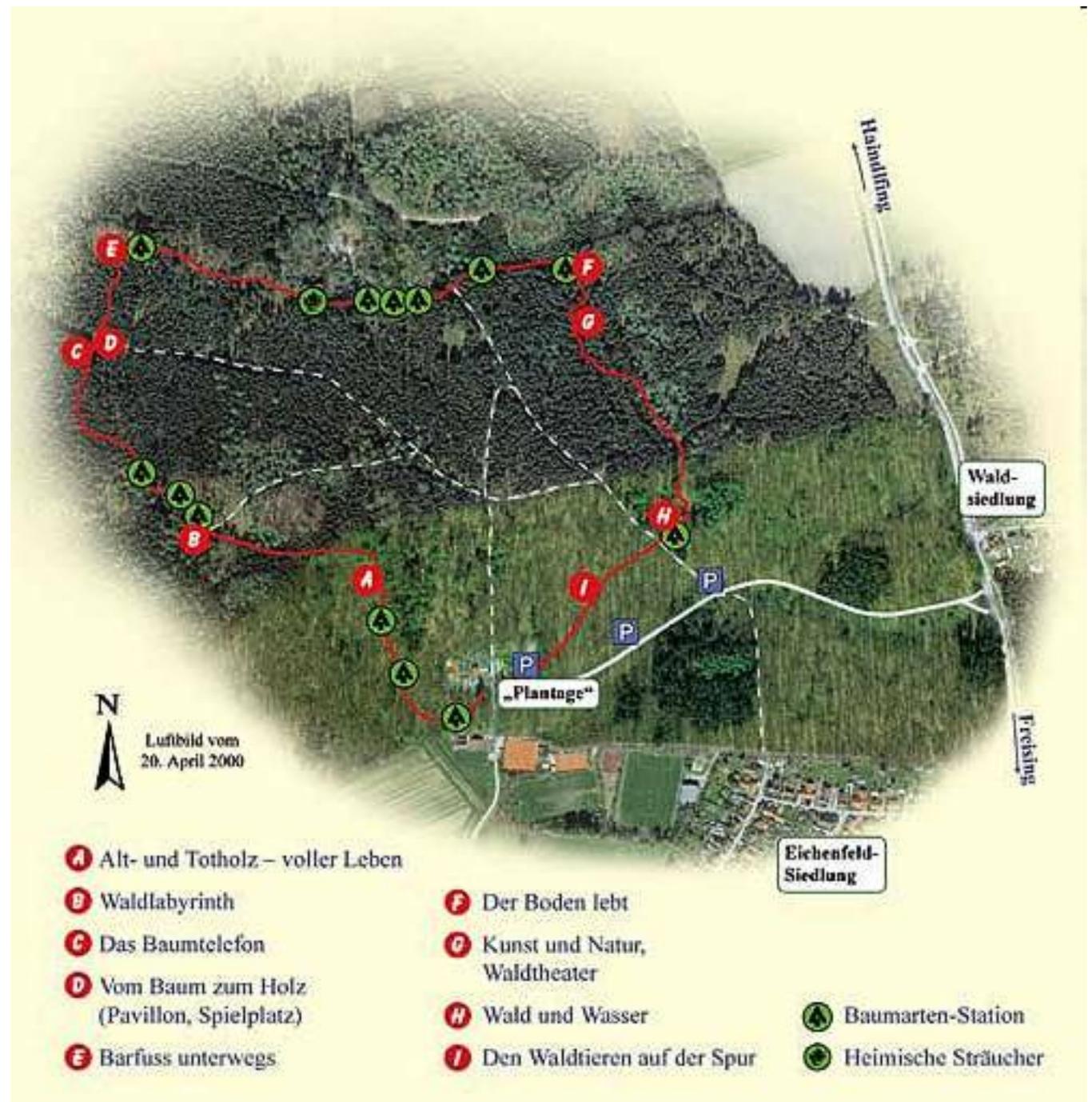
フライジングの「森の体験の小道」公園を訪ねて



自転車・2輪車の乗り入れ禁止

<http://www.walderlebnispfad-freising.de/index.html>





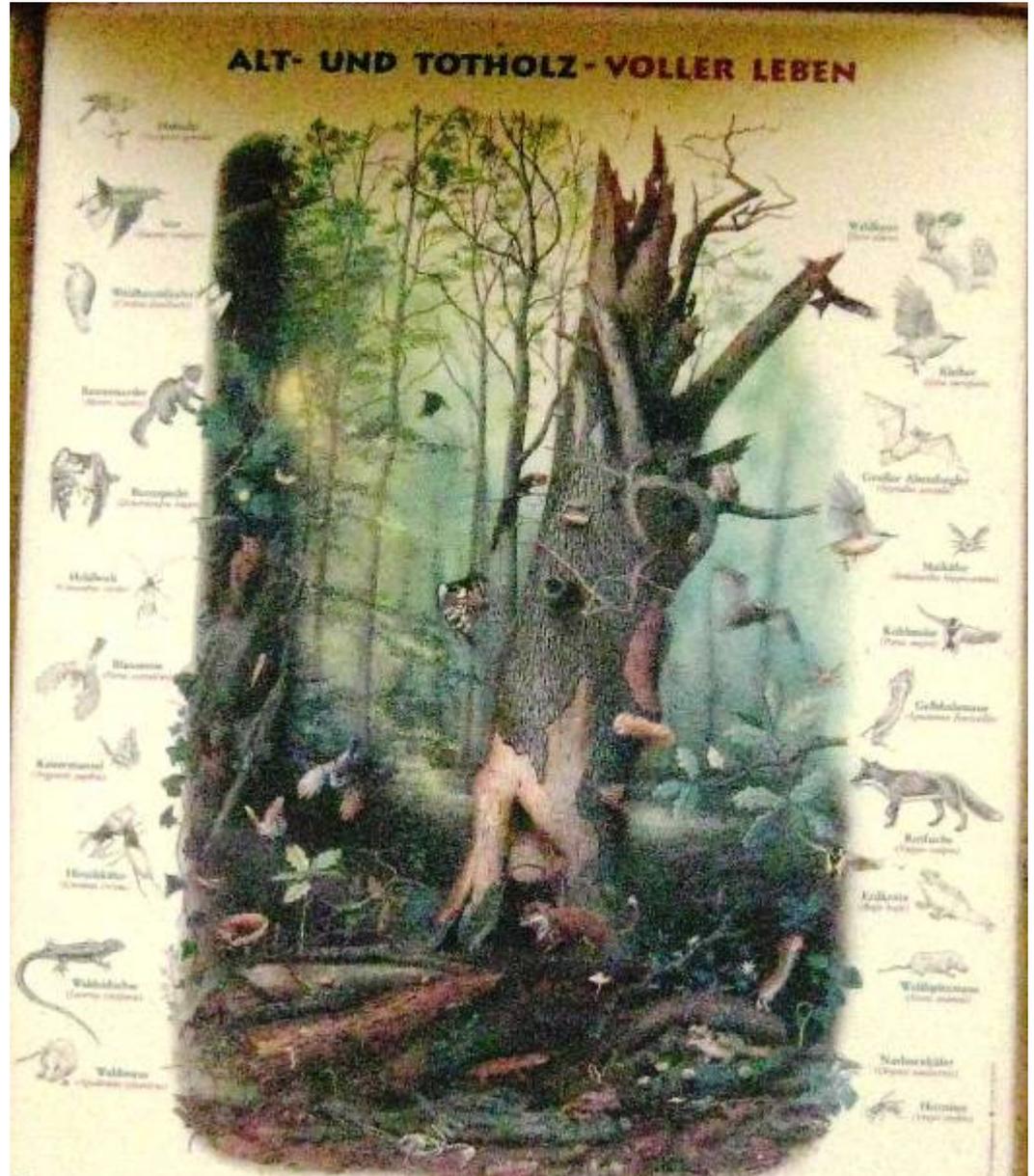
アジェンダ21

1992年にリオデジャネイロで開催された
国連環境開発会議で採択された文書のひとつである。
21世紀に向けて持続可能な開発を実現するための
具体的な行動計画を示す)がある。

その実施方法には、
「**教育、意識啓発、訓練の推進**」が
掲げられている。



分解系の展示場



子供達の基地



鳥やコウモリの巣



断幹された樹木



ヨーロッパトウヒ人工林を混交林へ
(ブナ・・・植え込み、トウヒ・・・天然更新)



森の中の芸術劇場

1960年代 デンマークで始まった

森を生きた教材にした幼児教育「森の幼稚園」が道内で広がりにつつある。札幌では30年近くも続いている幼稚園もあり、地球温暖化がテーマになった一昨年の洞爺湖サミットなどを契機に、保護者の環境への関心がより高まったことが背景にあるようだ。

(編集委員 石川徹)

札幌市中央区の大谷第二幼稚園(園長松子園長、園児155人)は、道内の「森の幼稚園」の広げの存在。30年ほど前から「幼児期の自然体験は感性を育て、命の大切さを知ることが出来る」と、自然体験を教育の柱としてきた。4、5歳児は最低でも週1回、3歳児もたびたび、札幌市内の野山に出かける。野外活動は冬も含めて一年中だ。

「今日はリスはいないのかな」。園の天然記念物に指定されている札幌市の円

子どもの感性 自然体験ではぐくむ

広がる「森の幼稚園」



散策会や キャンプ 命の大切さ学ぶ

山の原始林で、園児たちはカツラの大きな木の下にリスの食べ残した実や、野鳥のフン「ねおす」の木村恵巨き

の説明に食い入るように聞き入っていた。園長は「小中学生に

なった卒園者の親から、自然に詳しいとか汚れることを嫌がらないなど学校で褒められた、と感謝される」と語る。

渡島管内七飯町の認定こども園「アトんくり」(園長 恵園長)も、08年から森の幼稚園コースを開設。大谷第二幼稚園と同様、バスで近郊に出かけ、お泊り保育も野外キャンプにしている。

少子化でこの幼稚園も園児確保が悩んだが、大谷第二幼稚園では、1学年定員40人のところ、今年の3歳

園にもかかわらずカツラの木の前で説明に聞き入る大谷第二幼稚園の園児たち。4月28日、札幌市中央区の円山公園



札幌 くりのみ幼稚園

末次直樹(2008)
森林の教育の場としての機能～
「森林」を用いた教育の事例～、
北方林業61: 157-159

児の入園者は60人に。「アトんくり」でも、5歳児と4歳児の在籍はそれぞれ18人と17人だが、3歳児は27人に増え、親の関心が強いことをうかがわせる。

未就学児と保護者対象に、「森の幼稚園」を掲げた野外活動も盛んになってきた。札幌では市青少年女性活動協会が昨年からの南区滝野で毎月2回、自然教室を開催。NPO法人でも、ねおすや登別市ネイチャーセンター「ふおれすと鉱山」が取り組んでいる。

森の幼稚園は、1960年にデンマークで始まり、ドイツで広く普及。事情に詳しい東京農大の上原敏・准教授は「森の幼稚園誕生の背景には環境問題がある」と、自然の中で育った子どもは大人になっても自然を守る人間になるという、「願いからできた」と指摘。「北海道は活動場所も足りず、早く、幼児教育だけでなく子育て支援でも相付いてほしい」と話している。